

【A年】

復活前主日

人類を深く愛し、救い主、み子イエス・キリストをこの世に遣わされた全能の神よ、み子はわたしたちと同じ肉体を取り、己を低くして死に至るまで、十字架の死に至るまであなたに従われました。どうかわたしたちに恵みを与えて、み子の苦しみの模範に従わせ、またそのよみがえりにあずからせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第五二章十三節から」

13 見よ、わたしの僕は栄える。

はるかに高く上げられ、あがめられる。

14 かつて多くの人をおのかせたあなたの姿のように

彼の姿は損なわれ、人とは見えす

もはや人の子の面影はない。

15 それほどに、彼は多くの民を驚かせる。

彼を見て、王たちも口を閉ざす。

だれも物語らなかつたことを見

一度も聞かされなかつたことを悟ったからだ。

1 わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。

主は御腕の力を誰に示されたことがあるうか。

2 乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように

この人は主の前に育った。

見るべき面影はなく

輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ

多くの痛みを負い、病を知っている。

彼はわたしたちに顔を隠し

わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

4 彼が担ったのはわたしたちの病

彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに

わたしたちは思っていた

神の手にかかり、打たれたから

彼は苦しんでいるのだ、と。

5 彼が刺し貫かれたのは

わたしたちの背きのためであり

彼が打ち砕かれたのは

わたしたちの咎のためであった。
彼の受けた懲らしめによつて

わたしたちに平和が与えられ

彼の受けた傷によつて、わたしたちはいやされた。

6 わたしたちは羊の群れ

道を誤り、それぞれの方角に向かつて行つた。

そのわたしたちの罪をすべて

主は彼に負わせられた。

7 苦役を課せられて、かがみ込み

彼は口を開かなかつた。

屠り場に引かれる小羊のように

毛を切る者の前に物を言わない羊のように

彼は口を開かなかつた。

8 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。

彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか

わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり

命ある者の地から断たれたことを。

9 彼は不法を働かず

その口に偽りもなかつたのに

その墓は神に逆らう者と共にされ

富める者と共に葬られた。

10 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ

彼は自らを償いの献げ物とした。

彼は、子孫が末永く続くのを見る。

主の望まれることは

11 彼の手によつて成し遂げられる。
彼は自らの苦しみの実りを見

それを知つて満足する。

わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために

彼らの罪を自ら負つた。

12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし

彼は戦利品としておびたしい人を受ける。

彼が自らをなげうち、死んで

罪人のひとりに数えられたからだ。

多くの人の過ちを担い

背いた者のために執り成しをしたのは

この人であつた。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第二十二編 一〇十一節

1 わたしの神、わたしの神、どうしてわたしを見捨てられ
るのですか
どうして遠く離れて助けようとはせず、
わたしの叫びを聞こうとされないのですか

- 2 神よ、昼、わたしが叫んでもあなたはこたえられず＝
 夜、叫んでも心は安らぐことはない
 3 あなたは聖なる方＝ イスラエルの賛美を住まいとされ
 る
 4 わたしたちの先祖はあなたを信じ＝ あなたは彼らを救
 われた
 5 彼らは助けを求めて聞き入れられ＝ 信じて恥を受ける
 ことはなかった
 6 わたしは虫けらであって人ではない＝ 人にそしられ、
 民に侮られる
 7 わたしを見る者はみな笑い＝ わたしをあざけって言
 う
 8 「彼は主を頼みとした。神が救いに来ればよい＝ 神
 が彼に心をかけているのなら、救い出せばよい」
 9 あなたは母の胎からわたしを取り出し＝ その乳房でわ
 たしを育てられた
 10 この世に生を受けたときからわたしはあなたのもの＝
 母の胎にいたときから、あなたはわたしの神
 11 わたしから遠く離れないでください＝ 悩みはわたしに
 迫り、助けにくる者もない

使徒書

朗読者 「使徒書はフィリピの信徒への手紙第二章五節か

ら」

5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエ
 スにもみられるものです。6 キリストは、神の身分でありな
 がら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、7
 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者
 になられました。人間の姿で現れ、8 へりくだって、死に至
 るまで、それも十字架の死に至るまで 従順でした。9 この
 ため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与
 えになりました。10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下
 のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、11 すべての舌
 が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父で
 ある神をたたえるのです。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第二十七章一節以下に記され
た主イエス・キリストの福音。 主に栄光」
会衆 「主に栄光がありますように」

1夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同は、イエスを殺そうと相談した。2そして、イエスを縛って引いて行き、総督ピラトに渡した。

3そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、4「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。5そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。6祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、7相談のうえ、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地にすることにした。8このため、この畑は今日まで「血の畑」と言われている。9こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。「彼らは銀貨三十枚を取った。それは、値踏みされた者、すなわち、イスラエルの子らが値踏みした者の佃である。10主がわたしにお命じになったように、彼らはこの金で陶器職人の畑を買い取った。」
11さて、イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と言われた。12祭司長

たちや長老たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかつた。13するとピラトは、「あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞こえないのか」と言った。14それでも、どんな訴えにもお答えにならなかつたので、総督は非常に不思議に思つた。

15ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することにしてきた。16そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。17ピラトは、人々が集まつて来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」18人々からイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。19一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があつた。「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」20しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。21そこで、総督が、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、「バラバを」と言った。22ピラトが、「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、皆は、「十字架につける」と言った。23ピラトは、「いったいどんな悪事を働いたというのか」と言ったが、群衆はますます激しく、「十字架につける」と叫び続けた。24ピラトは、それ以上言つても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなのを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗つて言った。「この人の血について、わたしには責任が

ない。お前たちの問題だ。」25民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」26そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打つてから、十字架につけるために引き渡した。

27それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。28そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套を着せ、29茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、「ユダヤ人の王、万歳」と言つて、侮辱した。30また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。31このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行つた。

32兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会つたので、イエスの十字架を無理に担がせた。33そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、34苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。35彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、36そこに座つて見張りをしていた。37イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。38折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。39そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしつて、40言つた。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救つてみる。そして十字架から降りて来い。」41同じように、祭司長

たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言つた。42「他人は救つたのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。43神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」44一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしつた。

45さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。46三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになつたのですか」という意味である。47そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。48そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取つて酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。49ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見てみよう」と言つた。50しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。51そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真つ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、52墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返つた。53そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。54百人隊長と一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だつた」と言つた。

司祭
会衆

「主に感謝」
「主に感謝します」